

心拍数を連続的に測定記録することは，一日の行動の量および強さの事態をあきらかにする有用な手段の一つである。安静時の心拍数が性格特性等によつて異なることはすでに指摘したが，このような相違が安静時以外の状態においていかに変化するかとあきらかにするとともに，性格特性等の影響を消去する評価法を確立し，それによつて家事行動の量的な把握を容易にすることを目的とする。

被験者は，国地の2LDKに住む年令31才から40才までの専業主婦10名と，19～22才までの女子学生10名の合計20名である。心拍数はハートコーダを用いて測定し，マイクロカセットレコーダに収録した。マイクロカセットレコーダと両生器とテレメータ発信器を連結してライフスコープ100を用いて解析した。測定と実施する前日に趣旨の説明と器具取扱いの練習を行った。当日も日常とかわらない生活行動をするように特に要請した。そして当日は，午前8時から午後8時までの12時間にわたつてハートコーダを装着するとともに，生活行動の種類と時間を生活行動記録表に記入することと求めた。更に実験終了後に内観をするように求めた。その結果以下の表があきらかとなつた。

安静時以外の状態においても平均心拍数は被験者の性格特性等による変動が比較的大きく現われた。したがつて日常の生活行動の強度と平均心拍数で判定することは適切でないと思われる。なお，動作的家事行動の心拍増加率はほぼ1.1～1.5の範囲にあり，心的要素の付加した行動ではほぼ1.3前後，生理的行動ではほぼ1.2～1.4，静的余暇行動ではほぼ1.1～1.2，動的余暇行動ではほぼ1.3～1.5の範囲にあった。